

編 集 後 記

日本の英語学界を長年リードされてきた東北大学名誉教授・安井稔博士の、「紀要論文こそは、商業主義もその手を触れることのできない最後の領域である。執筆者は、たればかるところなく、最も学問的になるべきであろう。(中略) 紀要だけは、純粋に学問のかおりがする発表機関であってほしく思う」(『英語学 あの本この本』開拓社, 1985年, p. 159, 初出は1960年, 『英語年鑑』(研究社)と同書記載)という言葉は、編集子の脳裏に焼き付いている。

紀要論文は、ざっくばらんに持論を展開できるという点において、トップジャーナルに掲載される論文とはその役割を異にする。紀要論文における提案や主張はやがて広く学界に受け入れられ、文化・社会の発展に貢献し得る可能性を秘めている。

本号に掲載された論文はどれも皆、まさに「純粋に学問のかおりがする」ものばかりである。執筆者、査読を快くお引き受けくださった先生方、原稿が揃うのを辛抱強くお待ちくださったうえに、限られた時間内でゲラの校正を極めて精確に進められ、図書設計という観点から論文の質を高めてくださった編集室スタッフの皆様は心より感謝申し上げます。

(英語コミュニケーション学科『紀要』編集委員 H. S.)

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

発行所 昭和女子大学
〒154-8533 近代文化研究所
東京都世田谷区太子堂
電話 03 (三四二二) 五三〇〇
一ノ七ノ五七

学 苑 八十八十二号
定 価 八六四円 (本体八〇〇円)
購読料 一カ年分 一〇三六八円
(本体 九六〇〇円)
平成二十六年 三月二十日 印刷
平成二十六年 四月 一日 発行
編集発行人 齋 藤 彰
印刷所 三 秀 舎